

冬日和切符買ふのを手伝ひぬ
総武線の何処かの蜷の話かな
女手の赤チヨーク字のあんかうなべ
ヌマチチブはぜの仲間か冬深し
冬鳥をみる人々の玉子井
古漬を次の味へと替へにけり
粗目味噌粕麴など年用意
二歩三歩井桁の柄の春着の子
重^{「保育園」}ね着やフランダースの紙芝居
とうふやの二階に先生雪丸げ
お話は物忘れの段草青む

『まえだとし女 六百五十句』



冬草や調査の投網
冬薔薇階下は大衆酒場
深々と測量の人の毛糸帽

まえだとし女



『まえだとし女 六百五十句』

